

議会だより

2021年1月14日発行
(令和2年度)

Vol.149

山形県白鷹町議会
12月定例会

しらたか



「田植えから縄ないまで」 東根小学校のしめ縄づくり

政策提言書を提出 ②p

ここが聞きたい 本会議一般質問 4人の議員が町政を問う . . . ⑥p

シリーズ企画 知れば得する“ぎかい”のキホン「行政視察」 . . . ⑬p

政策提言は活かされたのか ⑭p

インタビュー 輝く地域の力 ⑯p

お手持ちのパソコンやスマホなどで
議会中継をご覧くださいませ。
録画でもご覧いただけます。



この広報は、議員の自主編集で発行しています。

町に2つの提言

政策提言書を提出

提言2 災害対策について（抜粋）

1. 災害時における町民への情報伝達手段の検証を行いながら、緊急情報サービスの提供に向けた環境整備を行うこと。また、十分な感染症拡大防止対策を講じながら、避難所でも情報伝達・収集できる整備を行うこと。
2. 白鷹町地域防災計画の見直しとともに、わかりやすい運営マニュアル等の作成により役割分担を明確にしながら、自主防災組織ごとの防災計画の作成を促すなど、防災に対する町民の関心・理解を図ること。
3. 豪雨災害の箇所については毎回被災する箇所もあり、予防・減災の視点で現況復旧に加え改良復旧にも取り組めるように国・県に強い働きかけを行うこと。
4. 災害発生時に町内の道路の被害状況を把握するパトロール及び土砂撤去等の応急対応については、除雪を担当する業者が担うなど、迅速に対応できる体制づくりに取り組むこと。
5. 重要幹線道路が被災した。早期復旧について国県への働きかけを強めるとともに、重要課題である国道287号菖蒲、下山地内の早期完成、西廻り幹線道路の早期着工、国道348号の再整備についても要望活動を強化すること。
6. 農地等の災害復旧については、農繁期に向けて迅速に対応するとともに、農業が将来にわたり希望が持てる産業として成り立つため、新規就農者等農業の担い手育成・耕作放棄地の解消及び未然防止・有害鳥獣対策・耕畜連携対策等、農業関係団体と十分な連携を図り各種支援を充実すること。



議長はじめ5人が出席し、提言書の内容一つひとつを丁寧に説明し、実現に向けた取り組みを強く要望しました。

政策提言書の全文はホームページに掲載



町民の安心に向けて

第6次総合計画に基づき「人、そして地域がつながり 輝き続ける潤いのまち」づくりに向けて、併せて「まち・ひと・しごと創生」に邁進する必要があることから、白鷹町議会として決算審議や各常任委員会において町の課題等について協議し、令和2年11月25日、町長に政策提言書を提出しました。

令和元年度に提出した「人口減少対策」「安全・安心で住みよいまちづくり」「白鷹町の活性化」に加えて、本年度は喫緊の解決・対応が課題となっている新型コロナウイルス感染症対策および7月豪雨の復旧復興等に特化して提言しました。

提言 1 新型コロナウイルス感染症対策について（抜粋）

1. 白鷹町立病院は、新型コロナウイルス感染症等に対する医療体制確保の面からもなくてはならない施設であり、町民の安心・安全のための拠り所となるよう引き続き支援に努めること。
2. 「新しい生活様式」の定着への啓蒙を行いながら、県外からの帰省等を含めて来町しやすい環境づくりに努めること。
3. G I G A（ギガ）スクール構想等により教育現場もデジタル化が浸透してきている。新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業等の多様な授業形態による教育の格差が出ないように努めること。
4. 新型コロナウイルス感染症禍の中、影響を受ける事業者に対し経営回復に向けた各種支援策を講ずること。また、「新しい生活様式」に向けた事業への支援を講ずること。
5. 働き方にも変化が現れている。移住定住を促す機会と捉え、希望される方のニーズを調査し、それに即した取り組みを検討すること。



（政策提言）

政策提言とは、政策決定者の町長に対し、各分野の課題を探し出し、全議員の総意として政策や施策を提言するものです。詳しくは前号(148号) 18ページ「知れば得する“ぎかい”のキホン 第6回政策提言」をご覧ください。

一般会計補正予算の主な内容

- 放課後児童クラブ施設整備事業 481万円**
次年度に開設する予定の放課後児童クラブ施設の整備
 - 中小企業金融対策事業(感染症対策) 560万円**
利子補給金の増加に伴う追加
 - 住環境向上及び住宅・木材産業活性化緊急促進事業 600万円**
需要が落ち込んでいる住宅産業・木材産業の活性化
 - 防災情報配信設備整備事業 3894万円**
災害情報配信設備の整備、配慮が必要な世帯に設置する戸別受信機の購入
 - 農地豪雨災害復旧事業 6666万円**
7月の豪雨災害により被害を受けた農地・農業施設の復旧
 - 林業豪雨災害復旧事業 1億1850万円**
7月の豪雨災害により被害を受けた林道の復旧
 - 道路河川豪雨災害復旧事業費 6億8000万円**
7月の豪雨災害により被害を受けた道路や河川の復旧
 - 観光施設豪雨災害復旧事業費 3200万円**
7月の豪雨災害により被害を受けたふるさと森林公園の復旧
- など

定例会は12月3日から11日までの9日間で開催され、令和2年度補正予算6件、条例改正等8件、請負契約の変更1件、財産の取得1件、財産の貸付1件について審議し、原案のとおり全会一致で可決しました。請負契約の変更一般質問は4議員が行い、町政全般について問いました。

質疑

受信機を全世帯に配備しない理由は

金田委員 防災情報受信機を高齢者の単身世帯に配備する予定となつているが、全世帯に配備しない理由は、**総務課長** 携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は、これらへの

緊急配信メールで連絡が取れるので、その手段を持つておらず希望される方に450台を見込んでいる。

金田委員 機器の月々の使用料は、

総務課長 本人の負担は無償で貸与したい。1台当たり月額300円

の通信料がかかるが、これは町で負担したい。

11ページに関連記事

早急な予算措置を

金田委員 小規模農地等災害復旧事業について、緊急事態にもかかわらず、臨時議会を開いて早急に予算措置を行えなかったのか。

農林課長 財源の確保に時間がかかった。そのためこのたびの補正予算として対応させていたいただいた。

金田委員 当初予算から補正額が大幅に増えている。その捉え方は、**農林課長** 申請が203件で、全体で4800万円ということになり、見通しが足りなかったと捉えている。



会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	9億8644万円	110億5400万円
特別会計	下水道	836万円 / 4億9893万円
	農業集落排水	120万円 / 1億7821万円
	介護保険	443万円 / 18億8551万円
	後期高齢者医療	80万円 / 1億4819万円
事業会計	病院収益的支出	340万円 / 12億3174万円
	病院資本的支出	1600万円 / 1億2712万円

※万円未満は端数調整

条例

- 白鷹町区長等設置条例及び白鷹町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正
区長等の任期及び報酬額を改めるもの。
- 白鷹町議会議員及び白鷹町長の選挙における選挙運動に要する費用の公費負担に関する条例の設定
町議会議員及び町長の選挙における選挙運動に要する公費負担について定めるもの。
- 白鷹町税外収入金の督促及び延滞金条例等の一部改正
延滞金の特例規定について条例を改正するもの。
- 白鷹町手数料徴収条例の一部改正
個人番号通知カードの交付が廃止されたことに伴い、条例を改正するもの。
- 白鷹町国民健康保険税条例の一部改正
軽減判定所得基準が見直されたことに伴い、条例を改正するもの。
- 白鷹町産業センターの設置及び管理に関する条例の一部改正
白鷹町総合情報センターを白鷹町産業センターにあわせて一元化し、一体管理とするため条例を改正するもの。

ほか2件

契約・取得

- 白鷹町郷土資料館整備工事請負契約の一部変更
契約金額の変更
【変更前】1億615万円
【変更後】1億919万9200円
多機能トイレを設置することにより、設計の一部を変更する必要があるため。
- 白鷹町郷土資料館収蔵棚の取得
取得方法 指名競争入札
取得予定価格 987万8000円
契約の相手方 株式会社尚古堂

貸付

- 財産の無償貸付
貸付する財産 土地
105,756.42㎡
貸付の相手方 山形鉄道株式会社
貸付の期間 令和8年3月31日まで

負担付寄付の条件により、引き続き無償貸付をするため。

第7回議会臨時会 11月24日

令和2年度白鷹町一般会計補正予算の専決処分を承認し、条例改正2件、補正予算4件について、全会一致で可決した。

専決処分の主な内訳

高齢者インフルエンザ予防接種事業(感染症対応分)	383万円
新型コロナウイルス感染症に係る検査費用助成事業	110万円
道路河川豪雨災害復旧事業費	1600万円
道路橋梁総務費(新荒砥橋建設促進期成同盟会補助金)	100万円



町内では学校と地域が一体となり、子どもたちを育む取り組みが広がっています。

例年は田植え、稲刈り、脱穀を体験してお米を食べる子どもたちですが、今年初めて、さらに藁わらの活用まで体験しました。

しめ縄は、普通の縄とは逆になうので大人でも難しい作業とのこと。子どもたちには、トータルで稲作文化を体験できる貴重な機会だったようです。

東根小学校の
しめ縄づくり

「田植えから
縄ないまで」

表紙



録画を配信

災害基金の創設を

町長 財政調整基金で対応する

災害基金の創設を

問 建設土木被害について、平成25年、26年の豪雨で被災し復旧した箇所において、このたび再度被災した箇所はどのくらいか。

建設水道課長

国の災害査定分として6カ所と把握している。そうした箇所については迅速な復旧に向けた今後の対策について協議しながら努力していきたい。

問 こうした災害の復旧事業、人的被害に活用できる災害基金を創設してはどうか。

農林課長



丸川雅春議員

町長

災害はできるだけ避け無いかから、災害をあらかじめ想定して基金を積むことはまだ早急であると思う。財政調整基金に災害分を含んでいるという認識のなかで対応させていきたい。

災害に強い地域力

問 町独自に展開した小規模農地等災害復旧事業の受付件数は203件とあるが、農地、農業用施設のそれぞれの割合は。

農林課長

農地と農業用施設を一緒に実施する箇所もあったが、農地4割、農

業用施設6割と捉えている。

問 こうした中において、この事業の課題をどのように把握しているか。

農林課長

全体の事業費が4800万円ほどに上るため、財源の確保に努めてまいりたい。また、申請作業などに手間が掛かってしまった地区もあり、申請件数の約半数が締め切り直前の1週間に集中してしまった。

町長

今我々は、実際に耕作をしているかどうかを含めて、所有者や地域のリーダーの方々や来年の状況を把握しながら、復旧に向けて頑張らせていただいている。この制度は、当然検証しながらではあるが、来年度以降も続けていきたい。

共創のまちづくり理念の定着を

問 区、町内会などが現れてきている。町全体の加入率は。

総務課長

町報などの文書直送世帯が330世帯なので、93%と把握している。

問 社会環境が変化していくなかで、共創のまちづくり理念をさらに定着するための対策は。

町長

地域の実情に応じて創意工夫を發揮できる地域づくり

推進交付金を継続して実施し、地域のリーダーと共に、安心して生活できる環境づくりに邁進していきたい。

問 地区を越えて連携する新たな活動も今後考えられる。その場合の地域づくり推進交付金の考え方は。

企画政策課長

地区ごとの計画に基づいたものに使っていただいている。従来枠の地域づくり交付金と共に、今後さらに実効性のある支援となるよう検討していきたい。



東高玉地内の豪雨災害現場

※条例の実効性の確保を

(※白鷹町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例)



録画を配信

町長 具体的な行動や形に現れるよう努力する

今後どう取り組むのか

問 条例の実効性を高めるために、今後どう取り組んでいくのか。

町長

町民の皆さんそれぞれ役割を、ご理解いただき、具体的な行動や形に現れるよう、努力する。

問

職員の研修や町民へのイベントなどはどのような内容か。

健康福祉課長

職員は心のバリアフリー推進員養成研修を受講している。10月に元氣ニコニコ健康月間を設け、町民に健康や福祉について考えていただいた。地域共生社



竹田雅彦 議員

会実現に向けたパネルを展示し、障がい福祉サービス事業所の活動も紹介した。

問

啓発セミナーの開催など専門家の活用は。

健康福祉課長

どのような講義などが適切なのか、今後の取り組みとして考えた。

問

今後の広報のあり方は。

健康福祉課長

意識の醸成と定着が効果的に図られるような取り組みを考えたい。

問 障がい者差別解消支援地域協議会に期待することは。

健康福祉課長

どのような取り組みが効果的か提案いただくなど、差別解消に向けたアイデアを、それぞれの立場からお話いただきたい。

問

今後事業所を整備する際、地域の方々の理解を深めていただくためにどうバックアップするのか。

健康福祉課長

地域の方々の温かいご協力が得られるよう、必要に応じた支援をしなければならぬと思う。

教育長 現在、学校教育で取り組んでいる※インクルーシブ教育システムの考え方に共通するものがあり、命の大切さや思いやりの心、相手を理解しようとする豊かな心の育成に取り組んでいる。ノーマライゼーションという言葉は違っても、学校生活の中における共生社会での育ちにより、その理念は自然の学びとして受け入れられると考えている。

問 小中学校で、福祉教育はカリキュラム化しているのか。

教育長

学校教育目標や各学年の指導計画との関連を明確にしながら実施している。総合的な学習のテーマに福祉や多様な生き方に触れることを設定し、福祉施設の訪問などを通じ、幸せの実現や福祉観の醸成に取り組んでいる。



問

福祉に関する教員研修の状況は。

教育長

福祉に関する体験や訪問する機会を設けており、社会福祉協議会や福祉施設の方々に指導をいただいている。

※ノーマライゼーション

障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域でいきいきと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す考え方。

※インクルーシブ教育

障がいのある子どもとない子どもが共に教育を受け、共生社会の実現を目指す教育。



録画を配信

移住施策の充実を

町長 お試し移住ツアーなど実施、令和元年度の移住者は218人

移住促進の状況は

問 移住促進への取り組みについて、これまでの成果と状況は。

町長 移住者の受け入れ体制整備、住まいを確保する取り組み、就農移住者の支援などを総合的に実施するほか、SNSによる情報発信やお試し移住ツアーなどを実施している。

令和元年度の移住者入実績は218人。今年度は10月末で112人、前年比で同程度。移住者が増えることで、地域にどのような影響が期待できるか。



横山和浩議員

町長 地域の担い手不足の解消や就農・起業などによる新たな仕事の創出、空き家の活用などが期待される。

さらには、外の目で改めて地域を見知ること、ひいては地域の活性化につながる。人口減少対策としての移住だけでなく、波及効果も見込んだうえでの取り組みを実施している。

今後の方針

問 コロナ禍により、地方移住の希望者が増えているとの報道がある。今後の方針は。

コロナ禍により、地方移住の希望者が増えているとの報道がある。今後の方針は。

情報発信

町長 オンライン移住相談会などにより本町をPRし、移住促進を図りたい。そのほか民間賃貸住宅の供給支援の継続、今後実施する公営の子育て世帯等向け賃貸住宅の整備などにより、若者の転出抑制や移住促進に努める。

問 町の移住関連サイト「しらたかで暮らそう」に、まちの息吹が伝わるような情報も載せてはどうか。

商工観光課長

月平均1200件ほどの閲覧数で推移している。おっしゃる内容は検討したい。

問 ウェブサイトに1年以上前の情報が掲載されているが、維持管理ルールは。

商工観光課長

マニュアルはない。



交流を楽しむ2019年お試し移住ツアー

移住後の支援

古い情報は削除する必要があるが1年ぐらい前のものは、何をしているのかわかるように残している。

問 移住ポータルサイトの活用は。

町長 白鷹町ふるさと移住推進協議会、移住コンシェルジュにより、移住後も含めて相談や移住者に対する細やかな対応を行っている。

商工観光課長

国・県のポータルサイトには、基礎的な情報のみ掲載しており、更新はしていない。町のサイトをリンクする

令和3年産主食用米の生産調整をどう進める

町長 ※とも補償事業を実施し、生産の目安を達成していく



録画を配信

生産調整方針は

問 町として、どの方針を打ち出していくのか。

町長 県から示された「市町村段階の「生産の目安」に基づく取り組みが必要であるとの認識のもと、とも補償事業の継続を含め、町全体で取り組んでいく。

問 とも補償事業の意義・目的は。

農林課長 自分自身で生産調整が困難な農家が、抛出金を負担して、生産調整に取り組んだ農家に補償金を支払い、町全体で生産調整を進めると

めの制度と認識している。

問 とも補償未加入農家への周知は。

農林課長 引き続き、水田農業部

問 転作率ほどの程度になるのか。また、今までの推移は。

農林課長 現段階で約42%と捉えている。実績値で、平成15年度は32・3%、平成30年度は41・3%となっている。

生産額等の影響は

問 米の生産が減少することの影響は。

農林課長 減産数量は約1900

俵となり、約2200万円の減収。率にして2・8%になる。この分を米に代わる作物で補うことは容易ではなく、誠に甚大と認識している。

問 米以外の作物が全国的に拡大され、過剰基調になった場合、販売価格の落ち込みが心配である。その対策は。

農林課長 例えば、枝豆は、転作

していくうえで非常に効果的な作物と認識している。JAと連携を深めてなるべく高く売れるよう取り組んでいきたい。

町長 将来的には、市場原理に伴う野菜というものは非常に難しいと思う。水田に



農林課長 詳細な部分についてはこれからである。今後、十分検討させていただきたい。

町長の思いは

問 町長の夢または農業者に向けてのメッセージを。

町長 農家の方々と十分に話し合い、収量や所得をどうやって増やしていくか、そして、夢や生産意欲の持てる農家になつていただけるような努力をしていきたい。

転作関連の交付金は

問 次年度の国の予算状況は。

農林課長 水田活用の直接支払交付金は、令和2年度と同額の3050億円の概算要求で、従来どおりの制度設計となる見通しとのこと。

問 水田活用の直接支払の中の、産地交付金は、白鷹町の独自裁量で作物振興などを決定できるが、見直しなどは考えているか。

将来的には、市場原理に伴う野菜というものは非常に難しいと思う。水田に

※「白鷹地区とも補償事業」

安定した米価を維持していくため、米を作っている方が米以外の作物を作っている方にお金を出していく白鷹町独自の事業。

総務厚生常任委員会 12月8日

デマンドタクシー町外延伸の実証実験終了

デマンドタクシー町外延伸の実証状況などについて説明を受けた。

【概要】

- 実証実験として、白鷹町立病院⇄公立置賜総合病院間（經由地なしの直行便）の町外延伸便の運行を実施。
- 運行期間 令和2年6月1日～11月30日（月曜～金曜の週5日 1日2往復）
- 利用料金 片道千円

【利用実績】

- 運行日数 124日
- 延べ利用件数 68件
- 月平均利用件数 11・3件
- 1日平均利用件数 0・55件

質 疑

再度の実証実験は

委員 コロナ禍での実験だったため、通常の

状況での調査に至らなかったと考える。アンケートには、どう改善すれば利用しやすいかの記述が多い。コロナが落ち着いた段階で、1年を通して実験してはどうか。

【当局】 コロナは先が見通せず、まずは今回で終了としたい。既存の交通機関とのバッテリーもあり、公共交通機関として皆様にご利用いただけるよう、検討したい。

【委員】 少数であっても利用者にはありがたい。ぜひ続けてもらいたい。

【当局】 山形交通も運行しており、町全体としての公共交通機関のあり方に配慮しなければならぬ。細やかに運



今後、荒砥高校をどうサポートできるのか

荒砥高校をサポートする会の取り組み状況について説明を受けた。

【取り巻く現状】

- 令和2年度入学者数は24人であり定員の2分の1を確保。
- 今年度より地域連携協議会が発足。従来のサポートする会による経済的支援中心の支援のほか、学校の魅力化に向けた取り組みが可能な状況。

質 疑

地域連携協議会との連携は

【委員】 協議会の開催状況は。

【当局】 総会と実務者会議を開催。先行的にやる部分と中長期的にやる部分とを分け、長期的な部分は荒砥高校の先生方とも意見交換をしている。



つたわれ、荒砥高校の魅力
(地区別学校説明会)

【委員】 成果を期待したい。取り組みがわかるように町民に知らせるのか。

【当局】 今年度中に成果を発表したい。ただし、いろいろ議論しながら方向性を出していきたい。町民の生活を考えながら、いろいろなご意見を頂戴したい。

【委員】 協議会とはどう連携をしていくのか。

【当局】 サポートする会は荒砥高校をどう残していくかを考え、取り組んできた。協議会はどうやっていくかという形になっている。意見交換をするには、方向を見定めてやっていきたい。

コミュニティ・スクール設置へ 学校運営協議会制度の導入について説明を受けた。

【経緯】

学校ごとに学校運営に必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会（コミュニティスクール）を置くことが努力義務となっており、令和3年度からの一斉導入を目指すもの。

【趣旨】

本町・各地区の実態や課題に応じた学校運営協議会の設置により、社会に開かれた教育課程のより一層の推進を図る。

【概要】

委員は保護者、地域住民、学識経験者、教職員他から10人以内。

質 疑

学校運営に関わるのか

委員 教育に関することではなく、学校の運

営に関するものと理解してよいか。

当局 学校運営の基本方針について意見をいただくもので、運営に関することが中心。

委員 例えば、空き教室を利用しながら地域も関わるといふこともあるのか。

当局 空き教室を利用し放課後子ども教室を運営している先進的な事例もあり、連携しての活動も考えられる。
委員 地域にどのように周知するのか。

当局 地域の方々の理解があつての協議会。地域の方やコミセンの方に声がけして参加していただいたり、広報を活用しお知らせしたい。



- そのほか
- 白鷹町地域防災計画の見直し
 - 白鷹町国土利用計画（案）について
 - 白鷹町振興実施計画（案）について
 - 山形鉄道株式会社経営改善計画の策定状況について
 - 白鷹町災害廃棄物処理計画（案）概要について
 - 白鷹町国民健康保険の現状と税率について
 - 白鷹町地域福祉計画の策定について
- などについて説明があつた。

総務厚生常任委員会協議会 11月17日

災害発生時の強い味方となるか

防災情報配信設備（戸別受信機）整備事業について説明を受けた。

【事業の概要】

現在、災害発生時は、屋外スピーカーからの音声及び災害メールで情報伝達を行っている。しかし、音声については聞き取りにくい状況にある。住宅内に設置できる戸別受信機を導入し、スマートフォンなどで情報を収集する手段のない世帯に貸与することにより、迅速化かつ確実な情報伝達を行う。

質 疑

貸与対象者

町内の単身高齢者世帯（868世帯のうち希望調査により貸与）

維持費は誰の負担か

委員 設備工事の内容は。現在の屋外スピーカーも使用するのか。

当局 配信整備やJアラートとの連携設備工事である。併用する。

委員 アプリも町民に活用を勧めるのか。

当局 戸別受信機と併せてアプリの導入について説明していく。

委員 維持費はいくらか。誰が負担するのか。

当局 通信費は月300円。町で負担していく予定。

そのほか

- 区長の任期等の見直しについて
 - 東根小学校区の放課後児童クラブについて
- などについて説明があつた。

産業建設常任委員会 12月9日

新しく生まれ変わるふるさと森林公園へ

ふるさと森林公園再整備計画（案）の概要について説明を受けた。
（そのほか、白鷹町食育・地産地消推進計画について説明があった）

【はじめに】

「町民の保健及び休養の場」としての「白鷹町ふるさと森林公園」の再整備と、「行政の補完機能」としての「白鷹町アルカディア財団」の位置づけを確固たるものにするため、再整備計画の策定を進めている。

質疑

委員 不採算部門の認識は。

当局 一番は風呂の管理である。源泉の温度が低いため昇温しなければならず、光熱水費がかさんでいると捉えている。

委員 施設の分散型と集約型を比較検討したようだが、保養センタ

ーまで大変遠いという課題もある。検証は新しい計画の中でどのようになされたのか。

当局 財団で検証している。一体型、分散型について策定検討委員会でも検討したが、パークゴルフ場の利用とその後パレス松風を利用される方もおり、一体型がいいという意見であった。

委員 利用者の利便性が大事かと思う。なるべく町民に利用してもらうための考え方は。
当局 魅力あるものとして、露天風呂が不可欠である。何らかのサービスを付けながら行っていくことも必要であると思う。



町民に喜ばれるパレス松風へ

委員 今回の計画では5年後にリニューアルオープンとあるが、もっとスピーディな対応で早くオープンできないか。

当局 町の6次総合計画などに基つき進める必要がある。前向きに取り組ませていただきたい。

委員 町民に喜んでいただけるようなパレス松風に生まれ変わってほしい。

当局 町民の皆さんによくやったといわれる施設にしていきたい。皆さんから知恵をいただきたい。

産業建設常任委員協議会 11月17日

産業振興を進めるために

白鷹町産業センターと白鷹町情報センターの管理について説明を受けた。

【趣旨】

情報通信の分野は進展が目覚ましく、多様な情報社会の中において、設立当初の目的を維持しながらも、情報センター単体としての機能・利用ではなく、産業センターと一元化し、一体的な管理を行うための条例を12月議会に上程するもの。

質疑

委員 現在の情報センターの職員数と主な業務内容は。

当局 情報センター自体にはいないが、産業センターと一体で2人マルチメディア室の貸し出しを行っている。

委員 産業センターの設立目的である、「産業の総合化を推進」という考え方は継続するのか。

当局 設立の考え方は、一体化後も引き続き継続したい。



知れば得する “ぎかい” のキホン

第7回

行政視察



行政視察の報告 ↑
議会だより Vol.145

行政視察とは、先進的な取り組みを実施している他の自治体などを実際に訪れ、その地域の行政や経済、文化の実情・事例を直接調査し把握することです。

1. 行政視察の主な流れ

1. 視察先の決定
視察先の決定に関しては、まずどういう問題を抱えているかを解決したいのか、どの行政や自治体があるかを下調べし、そのうえで視察先を決めます。

2. 現地調査

事前に依頼している調査事項について説明を受け、施設等を視察します。その際、実際に担当している方

にお聞きすることにより、良いところだけでなく苦労している部分なども意見交換します。

3. 報告書の作成・公表

参加議員が分担し、行政視察の内容を取りまとめ報告書を作成します。報告書には、目的や研修内容、所感などが記載され、その概要は議会、だよりなどで町民の皆さんに公表します。

視察後の取り組み

研修で学んだことを参考に、議会活動や「政策提言」等に生かします。

また、昨年度の議員研修で学んだことは一般質問にも生かされたほか、ペーパーレス議会システムは、実

令和元年度の行政視察 9月17日～ 東京都内4か所を視察

- ・ふるさと回帰支援センターでは、移住の動向や変化等を学び、全国的な移住促進施策に触れた。
- ・東京インタープレイ株式会社では、ペーパーレス議会システム等の説明を受け、実際に機材を用いて導入効果等を検証した。



ふるさと回帰支援センター



タブレット議会システム視察

- ・一般社団法人地域活性化センターでは、農業福祉連携など先駆的な地域活性化事業のプレゼンテーションを受け、その動向等を学んだ。
- ・大田区産業振興協会では、中小企業の技術技能継承やサポートの在り方などについて事例を学んだ。

現に向けて議会活性化特別委員会でも検討しています。

視察の受け入れ

白鷹町でも行政視察の受け入れを行っています。最近ではまちづくり複合施設が完成し内閣総理大臣賞を受

賞したことにより、多くの自治体や議会、各種団体の視察があるようです。



議会だより
148号へ


知れば得する議会の基本【政策提言】



町ホームページ
「政策提言」へ

回答の全文もこちらから

生かされたのか!?

項目2	利用者の声を取入れ親しみある複合施設		項目3	西廻り幹線道路の早期着工・実現	国道287号の下山菖蒲地内早期改良
回答	より良い施設運営に向け「ご意見箱」を設置し利用者からの意見をいただいている。運営方法も含め環境整備をはかっていく。		回答	令和2年度から 一般調査 （みちづくり調査）が実施されている。長井市と合同で設立した期成同盟会においても、 要望活動 を行っていく。	令和2年度は菖蒲地内で 路線測量、詳細設計 が行われた。さらなる促進に向け町の重要事項として国・県への 要望活動 を行っていく。

町政全般のご意見を

項目4	区からの要望に対し早急な対応	項目5	高齢者に優しい交通手段の確保	項目6	安心して子供を産み育てられる環境づくり
回答	安全性・緊急性等を念頭に、限られた予算の中で 最大限の効果 が生み出せるよう様々な工法等を比較検討しながら対応していく。	回答	デマンドタクシーの町外延伸の実証実験結果や利用者アンケートの内容を踏まえ 更なる利便性の向上 に向けた検討を行っていく。	回答	産科・小児科の設置は困難であるが、妊娠・出産から子育てに関する町の取り組みに対し、町立病院として 可能な限り協力 していく。



母子手帳アプリ

● 提言3 白鷹町の活性化

項目1	若者・女性の町定住へ働く場の確保	項目2	森林・林業再生へ境界明確化事業の加速	項目3	東北中央道開通に伴う町への誘導施策	項目4	推進交付金の継続で地域活性化への支援
回答	町報での若者紹介や事業所の紹介のほか奨学金返還支援事業や起業支援などにより、 定住 及び新たな 産業の創出 に取り組んでいく。	回答	境界明確化は 1年で50ha が目標。効果的な手法を研鑽する。完了後は路網整備や間伐等の森林整備を計画的かつ継続的に取り組む。	回答	交通網の利点を活かし 新たな受注拡大 を模索していきたい。観光交流は長期的視点で観光客受け入れの体制づくりを進めていく。	回答	今後も成果や課題を検証し、それぞれの特色を活かした取り組みや課題の解決に向け、 コミセンを拠点とした地域づくり を支援していく。

町民の声が反映される町政を望む

令和元年11月29日、議会の総意として町長に行った政策提言に対し令和2年8月25日、議長に回答が示された。提言がどのように町政に生かされ、町民の暮らしに反映されているのか、抜粋して掲載する。

政策提言は町政に

● 提言1 人口減少対策

項目1	子育てに対する 経済的支援 の充実・維持	共働きに配慮した土日や夜間保育 の実施	病児・病後児保育 の実施	住宅確保 や移住につながる 環境の充実
回答	出生祝金 の贈呈や、第3子の保育料・副食費の 無料化 、医療費の自己負担を18歳まで 無料化 、 学校給食費支援 等が続けていく。	土曜日は全園で保育を提供している。日曜日は ファミリーサポートセンター の託児サービスが利用できる。夜間保育は難しい。	前向きに検討を進めている。町外の病児・病後児保育施設を利用した場合の 助成制度 を創設した。	子育て支援 住宅の増設 や、「子育て世代包括支援センター」では妊産婦や乳幼児等に対し、 きめ細やかな対応 を行っている。

項目2	活発な事業で 移住や定住人口の増加	移住・定住に関して 特色ある支援策	項目3	学校・家庭・地域が連携し 郷土教育	将来の 人材育成・確保 につながる施策
回答	先輩移住者の視点からきめ細やかな対応を行っている。 本町独自の支援制度 を設け移住定住促進や空き家利活用促進をはかっている。	首都圏白鷹会や仙台北らたか会、山形市ふるさと白鷹会、移住相談会などの機会に意見を聞き、 より良い移住施策 になるよう取り組む。	回答	学校所在地域ごとの 特色・特性 を生かした取り組みの実践。地域資源を発見することで 郷土愛を醸成 する取り組みを行っている。	白鷹中、荒砥高、白鷹専修学校の就業体験を通じ町の産業や仕事、文化を学び本町の良さを認識してもらい、 将来の人材確保 につなげる。

● 提言2 安全・安心で住みよいまちづくり

項目1	地域の実情に応じた 機動的な除排雪	高齢者に配慮した除雪体制 の確立
回答	除雪に関わる アンケートを実施 し地域の実情（通学路や交差点等）を考慮した 除雪 を行い、春に区長を通じ損傷箇所等を確認し翌冬に備える。	雪下ろし助成を継続し、高齢者等要援護世帯は、毎年状況を調査し、間口になるべく 雪のかたまりを残さない ような配慮をしている。



無理なく続けたいですね。



海老名 直志 さん (滝野地区)

輝く地域の力 白鷹の未来を彩る

滝野夏祭り実行委員会

… 地域に笑顔が広がるために …

滝野夏祭り実行委員会代表の海老名直志さんにお話を伺いました。

活動のきっかけは

滝野にも以前は盆踊りがあったのですが、無くなって寂しい思いもあり、また新しく来た人たちと地域の方々がお互いにならぬ、皆さんが一堂に会する場所があってもいいと思い。

どんな活動ですか

お祭りの企画運営ですね。打ち上げ花火や出し物、のど自慢や抽選会、新婚さんいらっしやいや売店など毎年趣向を凝らして開催しており、

特に有志のステージでは、自前で衣装を用意するなど、年々進化しています。

昨年10周年で、ミッシーチエンさんをお招きして、DJ+MC3人の本格的なライブを見るのができました。

抽選会の際、景品を取りに来た人たちにインタビューするのですが、新しい人や子どもを紹介する機会にもなっています。

でもこの夏はコロナ禍で残念ながら開催できませんでした。

仲間について

当初は若い衆で企画しようと思いをかけ、現在は20数人のスタッフでやっています。コミセンと交通安全協会の方々にもご協力いただいております。

心がけていることは

自分たちの意志で縛りもきつくなく、無理なくやっていくこと

とを大事にしています。自分も、お祭り当日でも仕事優先でやらせてもらっています(笑)。

良かったことは

子どもたちがすごく楽しそうにしていることです。若妻の方々が浴衣を着て盛り上げてくれて、なかなか華やかです。良い交流の場になっています。

各戸から寄付をいただき、花火を盛大に打ち上げることができています。滝野の皆様、ご協力ありがとうございました。

今後は

バラエティーに富んだ形でやっていきたいですね。皆さんが集まってくれる間はやっていきたい。ただ、コロナの影響でどう開催できるのか心配ですが、コロナ禍のなかでの祭りのあり方も提案していきたいですね。



盛り上がる夏祭り

議会へひとこと

定員割れしているところもある中で、若い議員もいて頼もしく感じます。世代が幅広いのは良いと思うので、柔軟に町のことを議論して欲しいですね。

取材を終えて

地域力を継続して高めていくためには、自分たちも無理なく楽しみながら取り組んでいく姿勢が大事であることを学ばせていただきました。(竹田)

編集後記

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症がこのような短期間で全世界に広がることは夢にも思いませんでした。本町に目を向ければ、まちづくり複合施設の完全整備とそれに伴う全国木材利用優良施設コンクール内閣総理大臣賞受賞、そして町民の大きな願いであった白鷹大橋の開通と、明るい話題が駆け巡りました。

さて今年には丑年。丑年は芽吹きを迎えようとする年と言われています。今年こそは人類がコロナ感染を完全に抑えることに成功し、大きな喜びを味わいたいものです。(丸川)

広報委員

- 委員長 菅原 俊一
- 副委員長・編集長 横山 和浩
- 委員 丸川 雅春
- 委員 竹田 雅彦
- 委員 金田 悟
- 印刷 (有)梅津印刷



お手持ちのパソコンやスマホなどで議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。